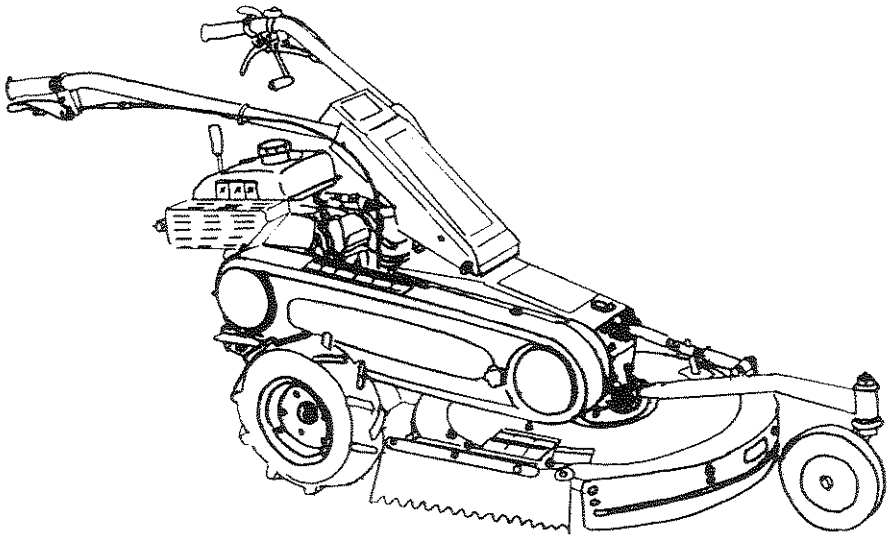
取扱説明書

自走式雑草草刈り機　オートモアー

AM61A，71A



●取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
●本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
●取扱説明書はいつでもご覧になれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社　共立

80－1415－000500

目　次

項　目　　頁

《はじめに》 …… 1
《本製品の規制について》 …… 1
《保証とサービスについて》 …… 1

《定義とシンボルマークについて》 …… 2

《安全に作業をするために》 …… 2

《各部の名称》 …… 6
《各部のはたらき》 …… 7
《仕様》 …… 8
《機械を他人に貸すときは…》 …… 8
《上手な運転のしかた》 …… 9
運転前の始業点検……9　走行・旋回・停止のしかた……12
エンジン始動・停止のしかた……9　トラックへの積み降ろしのしかた……14
《上手な作業のしかた》 …… 15
草刈り作業……15
《長期保管のしかた》 …… 17
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》 …… 18
ミッションオイルの注油・点検・交換……18　各部への注油のしかた……19
エンジンオイルの注油・点検・交換……19
《各部の点検・整備・調整のしかた》 …… 20
点火プラグの点検・調整のしかた…20　燃料フィルターポットの
エアークリーナーの清掃のしかた…20　清掃のしかた……22
タイヤ空気圧の調整のしかた……21　そのほかの点検……22
燃料パイプ点検のしかた……22　各部ワイヤー調整のしかた……23
《ナイフの点検・交換・修正のしかた》 …… 25
ナイフの点検・交換……25　ナイフの修正……26
《工具袋・同梱品明細》 …… 27
《消耗品明細》 …… 27
《定期自主点検表》 …… 28
《刈り取り性能診断》 …… 29
《エンジンの不調とその処理方法》 …… 30
《販売店・営業所リスト》 …… 31

《 はじめに 》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後は必ず大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようにご活用下さい。

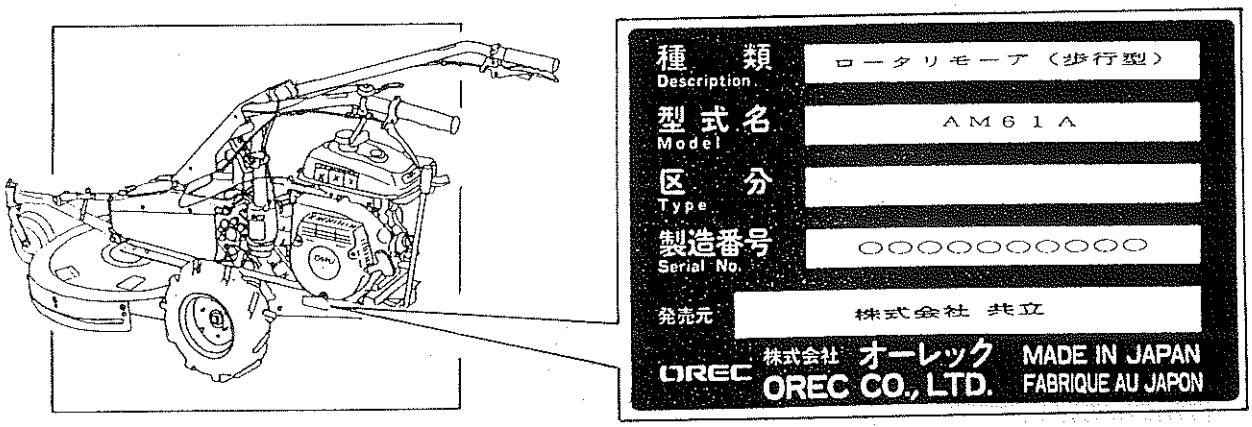
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

《 本製品の規制について 》

本製品は、 **農業用の草刈機** として開発しておりますので、それ以外の用途には使用しないで下さい。

《 保証とサービスについて 》

本製品の保証期間は、購入後１ケ年間､又は５０使用時間(業務用については６ケ月間、もしくは５０使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は、当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、 『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』 を併せてご連絡下さい。



※注意：

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等について、ご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

《定義とシンボルマークについて》

「危険」、「注意」、「参考」について、本取扱説明書では、次のような定義とシンボルマークが使用されています。これらは安全で快適な作業を行っていただくために、特に重要な部分です。注意深くお読み頂き、十分理解して必ず守って下さい。

⚠ 危険：	人身事故防止用 遵守しないと人身事故が発生し、場合によっては 死亡 の可能性もある。

※ 注意：	製品自体の損傷防止用 遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与える。

参考：	操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項。

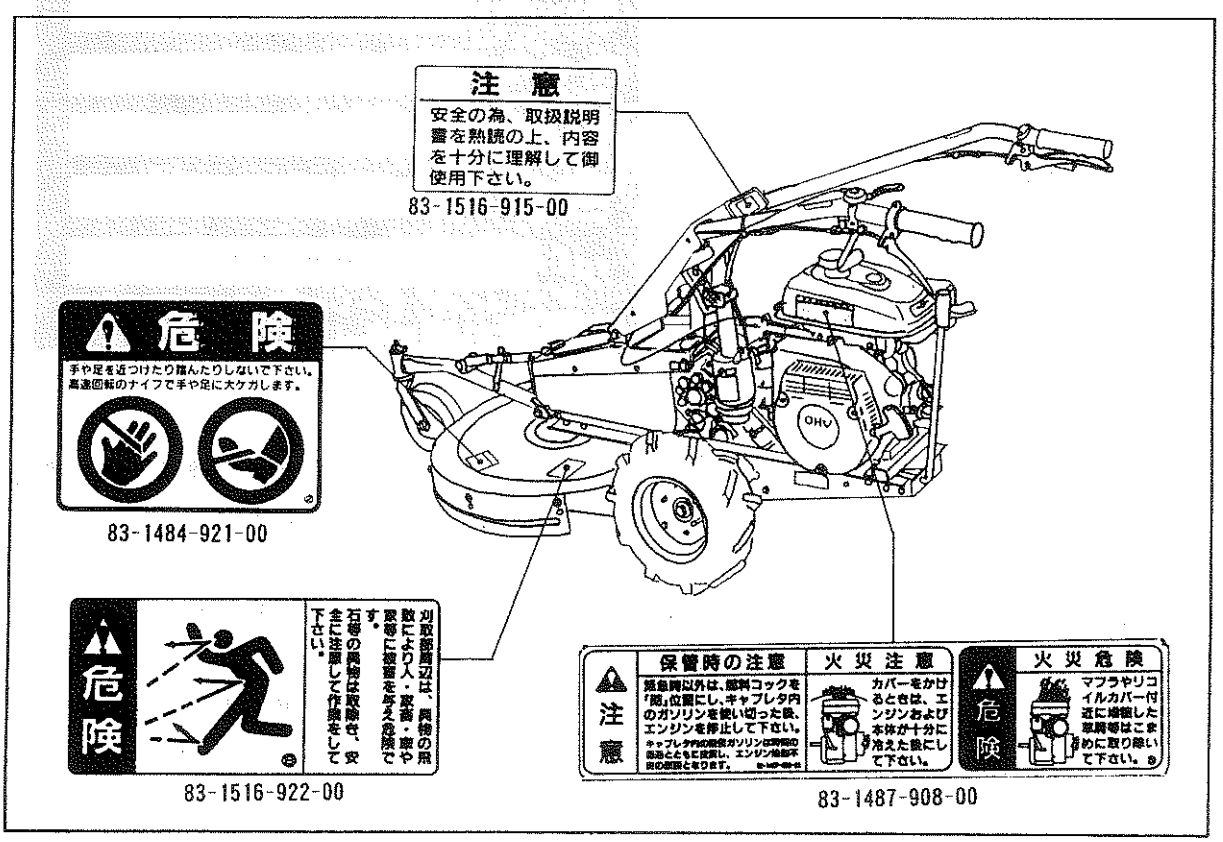
《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

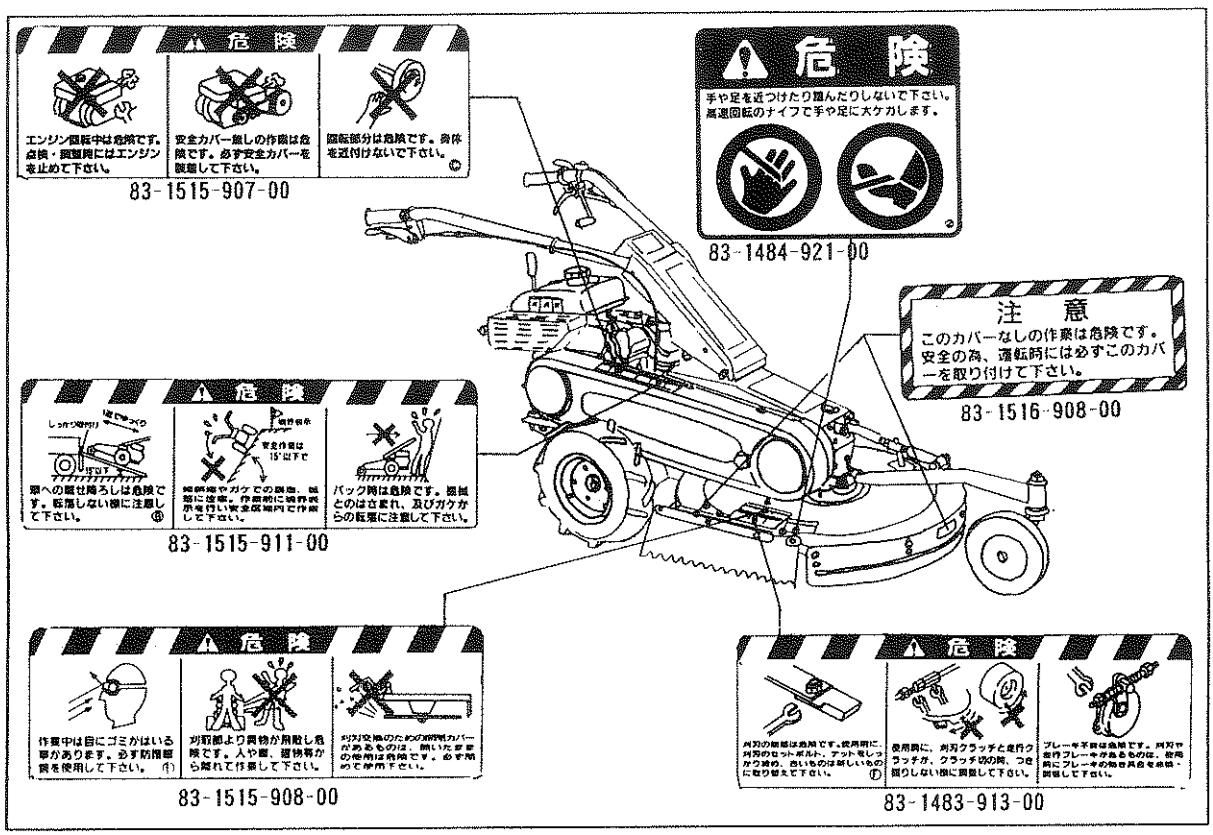
（1）危険表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

☞…危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈27頁…消耗品明細 参照〉

☞…本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





（２） 作業前の注意

・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。

・所有者以外の人は使用しないで下さい。

・作業者の体調が悪いときや過労ぎみ、飲酒時のときは作業しないで下さい。
又、子供や妊婦にも作業させないで下さい。

・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。

・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等がいないことを確認し、作業中は、半径１０ｍ以内にこれらのものを近付けないで下さい。

⚠安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

⚠ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めて下さい。
又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

⚠ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。

⚠排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

・椅子等の乗用装置のないもの（歩行タイプ）は乗用できません。これらのものに、人や動物を乗せないで下さい。
・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
・ナイフクラッチと走行クラッチが「切」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤーを調整して下さい。
・１０°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が１５°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。
⚠斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。
⚠斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に身体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では、本機の山側にはいないようにして下さい。
・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
・狭い橋の上を走行する場合、転落の危険性があります。狭い橋等は走行しないで下さい。
⚠暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

（３）燃料給油時の注意

・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。
⚠火傷や火災の危険がありますので給油はマフラーの温度が十分下がってから行って下さい。

（４）始動時の注意

・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
・走行クラッチ、ナイフクラッチを「切」位置にし、変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動して下さい。
・回りに人や動物や車両等がいない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動してください。

（５）積み降ろし時の注意　〈14頁…参照〉

・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車止めをして下さい。
・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み降ろしともに前進「🐢」位置でゆっくり行いその他の位置には絶対入れないで下さい。

（６）作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

⚠排気マフラー付近は熱いため、火傷をしないよう、手等を近付けないで下さい。

・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

⚠刈取部より石などの異物が飛散し危険です。人や車、建物などからはなれて十分ご注意の上作業して下さい。

⚠回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。

⚠冷却風の吸込口、シリンダー付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアークリーナー内部の清掃も同時に行って下さい。

⚠石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始め、安全のため、通常よりも高刈りで作業をして下さい。
ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

・作業中、石、木株などにあたった場合は、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲りの有無を調べて下さい。

（７）作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。

・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

（８）点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

⚠ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

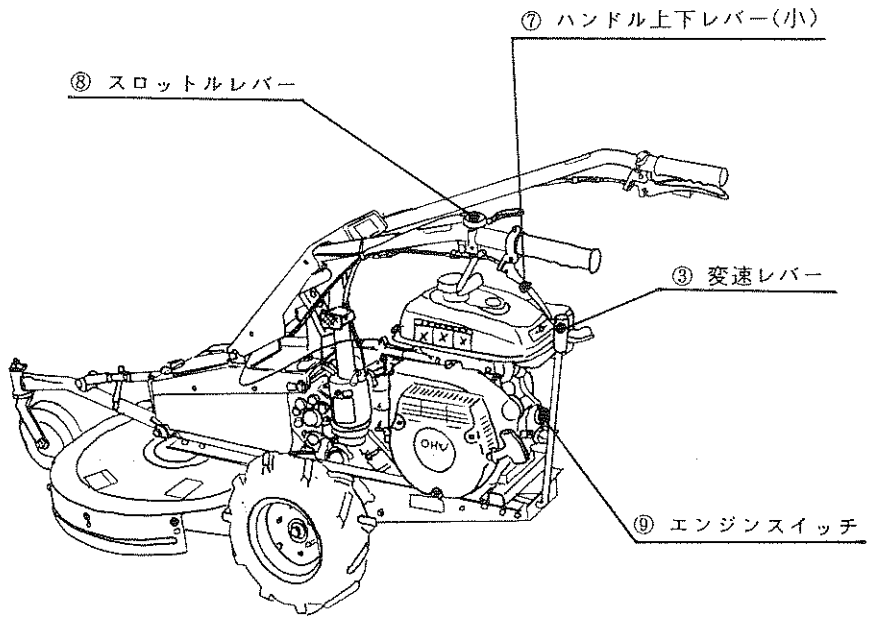
⚠ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

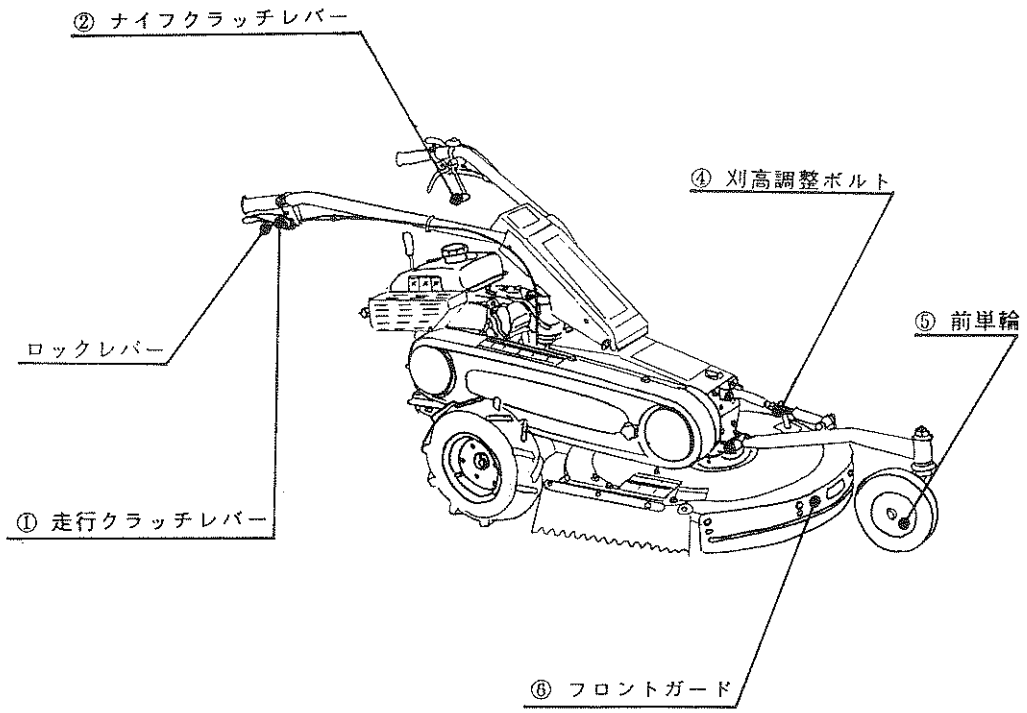
・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。

・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が１００時間に到達しない時点で交換して下さい。

《 各部の名称 》


⑦ ハンドル上下レバー(小)
⑧ スロットルレバー
③ 変速レバー
⑨ エンジンスイッチ


② ナイフクラッチレバー
④ 刈高調整ボルト
⑤ 前単輪
ロックレバー
① 走行クラッチレバー
⑥ フロントガード

《 各部のはたらき 》

① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーのみを握るとレバーはロックして「切」の状態、ロックレバーを一緒に握って離すと「入」の状態になります。

② ナイフクラッチレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。レバーを上に引き上げると「入」の状態、左手の親指でレバーを下方に押すとハンドルから手を離す事なく「切」位置にできます。

③ 変速レバー

走行速度の選択に使用します。変速段数は前進のみで「」、「」の２段です。変速する場合には走行クラッチレバーを一旦「切」位置にした後に操作して下さい。「」位置ではゆっくりと、「」位置ではスピーディーな前進が行えます。

④ 刈高調整ボルト

刈高さの調整をするときに操作します。操作はロックボルトを緩めた後に行い、調整後は必ずロックナットを締め付けておいて下さい。

参考：

ロックナットを締め付けないままで作業を続けると作業中の振動で刈高が変わってしまう恐れがあります。

⑤ 前単輪

スラストベアリングの採用により旋回方向へハンドルを振るだけで素早く前輪の向きを変えることができます。

参考：

平坦な圃場で障害物(木や柱等)の間を縫う様にして作業をする場合にはデフ機構と相俟って小回りの効いた作業をする事ができます。

注:デフ機構

本機を旋回させる際に左右のタイヤの内輪差を自動的に調整する機構で、この機構により、旋回させる方向にハンドルを振るだけでスムーズな旋回をすることができます。

⑥ フロントガード

ナイフカバーからの石やその他の異物の飛散を防止します。作業状況に応じて上下２段に調整することができます。

⑦ ハンドル上下レバー(小)

作業状況又はオペレーターの体格に応じてハンドルの高さを上下５段階に調整することができます。

⑧ スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

⑨ エンジンスイッチ

エンジンの「**運転**」・「**停止**」の操作を行います。

《 仕様 》

名　　称		オートモアー	
型　　式		AM61A	AM71A
全長・全幅・全高(mm)		1,660×670×800	1,680×760×800
刈　幅(mm)		600	700
刈　高(mm)		10～80　(地面刈禁止)	
ナイフ		バーナイフ（両面）～1枚	
Vベルト		(走行)LA37×1本　,　(刈取)LB69×1本	
重量(kg)		87	97
タイヤサイズ		3.50－5(φ330)	3.50－7(φ350)
ハンドル上下		手元レバー式(上下5段階)	
走行・ナイフクラッチ方式		走行：噛み合い式　ナイフ：ベルトテンション	
速度(km h)		①1.8 , ②3.1	①2.0 , ②3.4
作業能率(a／h)		①10.0 ②18.0(直線時)	①14.0 ②23.8(直進時)
エンジン	名　称	メイキ	
	型　式	GM181LN	GM221LN
	最大出力(PS)	6.0	7.0
	始動方式	リコイル	
	点火プラグ(NGK)	BP5ES	
	燃料タンク容量(ℓ)	4.0	

※本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

《 機械を他人に貸すときは･･･ 》

所有者以外の人には作業させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業するように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《上手な運転のしかた》

運転前の仕業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈28頁参照〉に従って仕業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

⚠ 危険：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた

⚠ 危険：

①締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。

☞ 締め切った室内でエンジンを始動すると …
有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

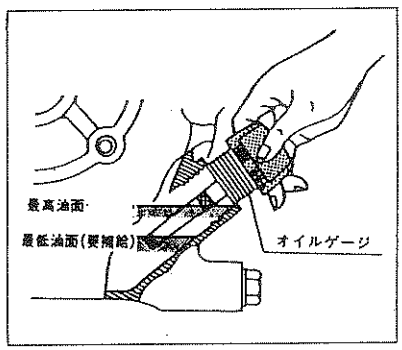
②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。

③エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

④エンジンの暖機運転は、締め切った部屋では行わないで下さい。

⑤エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

エンジン始動のしかた



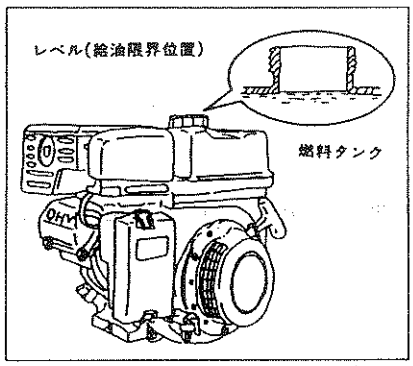
①エンジンオイルを確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。
オイルゲージの上と下の目盛線の間にオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

※注意：
エンジンは水平にして給油栓はねじこまずに差し込んで点検して下さい。

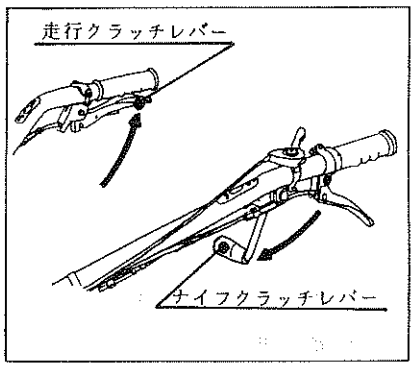
参考：
使用するエンジンオイルはＳＤ級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い別けて下さい。

☞ …	夏期(10℃以上)	SAE30、SAE10W-30、又はSAE40
	冬季(10℃以下)	SAE5W20又はSAE10W-30

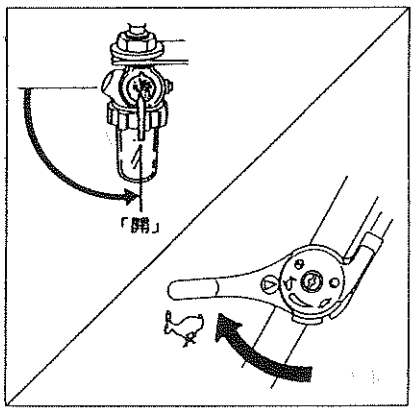


②燃料を確認して下さい。〈タンク容量は 8 頁参照〉
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

危険：
- 燃料を入れるときには必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラーが冷えているのを確認した後入れ過ぎて燃料をこぼさないよう注意し、もしこぼれた場合はきれいにふきとって下さい。

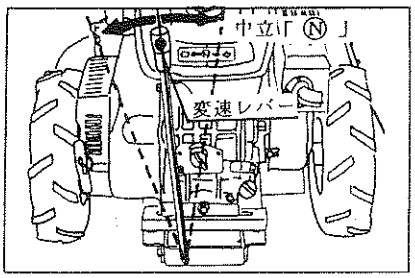


③走行クラッチレバー、ナイフクラッチレバーは共に「切」位置にあることを確認して下さい。

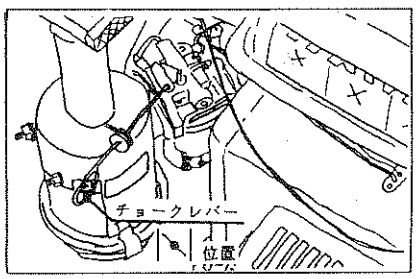


④燃料コックを 「開」 位置にして下さい。

⑤スロットルレバーを操作し、「🐇」位置にして下さい。

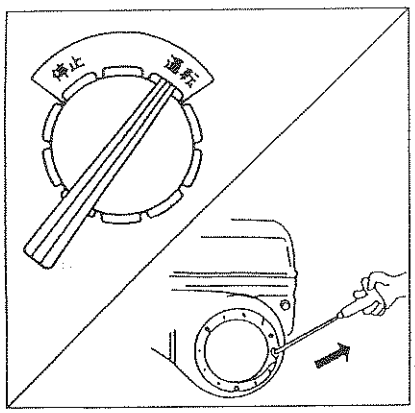


⑥変速レバーを中立 「Ⓝ」 位置にして下さい。

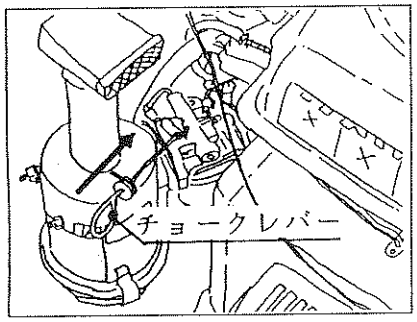


⑦チョークレバーを操作し、チョーク弁を「閉」位置にして下さい。

参考:エンジンの暖機が済んでいる場合には、
チョークレバーの操作は必要ありません。



⑧エンジンスイッチを「運転」位置にし、スターターノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ります。エンジン始動後は直ちにスターターノブをゆっくりと元の位置に戻して下さい。

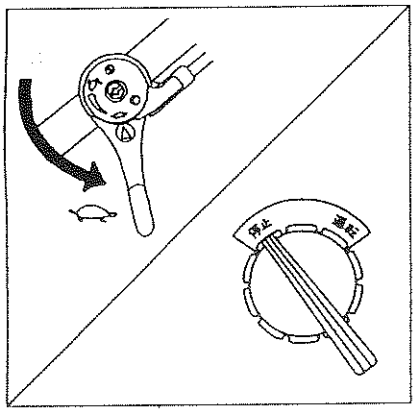


⑨エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を「開」位置にして下さい。

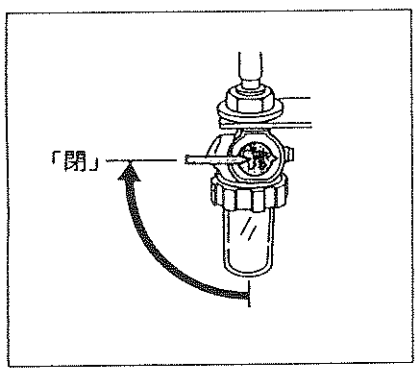
※注意：

- エンジン始動後は負荷をかけずに約５分間は低速側で暖機運転をして下さい。
- 暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命を延ばします。

エンジン停止のしかた



①スロットルレバーを「🐢」位置にし、エンジンスイッチを「停止」位置にするとエンジンは停止します。



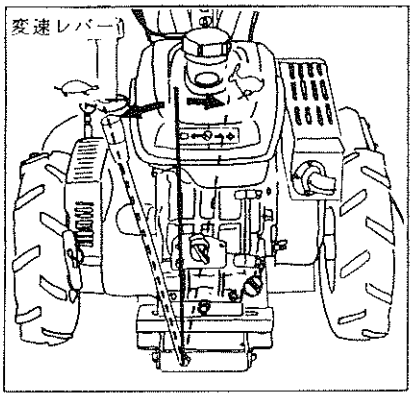
②最後に燃料コックを「閉」位置にして下さい。

走行・旋回・停止のしかた

⚠危険：

- 所有者以外の人には使用させないで下さい。
- 走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- 側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- 勾配が10°以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

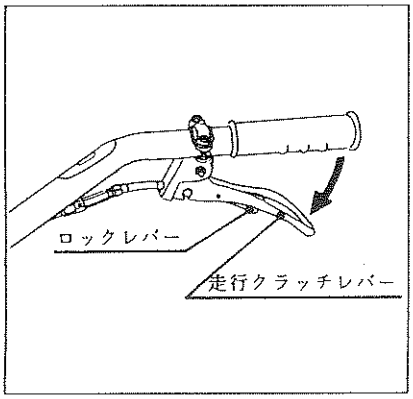
走行・旋回のしかた



①エンジンを始動させて下さい。

〈9頁…エンジン始動のしかた参照〉

②変速レバーを「🐇」、「🐢」の内から所要の位置に確実に入れて下さい。
変速（ギアチェンジ）が不十分な場合ギア抜けの恐れがあり大変危険です。
ギアが入りにくいときには無理に入れずに走行クラッチレバーを 「入」 方向へ少し動かしてから再度、確実にギアチェンジを行って下さい。



③スロットルレバーを低速「🐢」と高速「🐇」との中間位置にし、走行クラッチレバーのロックレバーと一緒に握って離して「入」位置にすると走行します。

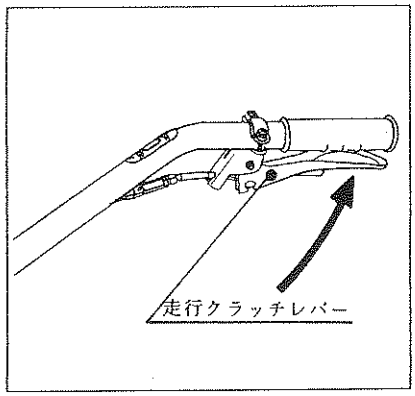
⚠危険：

- 安全のため、移動する時は刈高調整ボルトで前単輪を一番高い位置にし、石やその他の障害物にナイフが接触しないようにして周囲に十分注意しながら行って下さい。
- ナイフクラッチレバーは絶対に「入」位置にしないで下さい。変速（ギアチェンジ）がどの位置にあってもナイフが回転し非常に危険です。

参考：

- 旋回する際にはハンドルを旋回方向へ振って行って下さい。

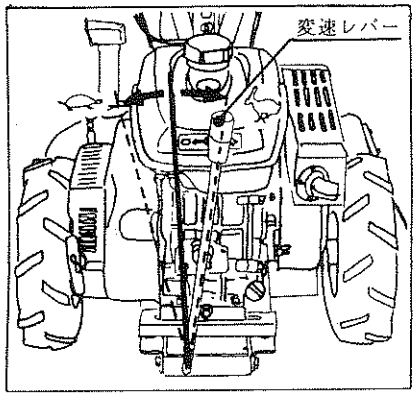
変速のしかた



①走行クラッチレバーを握ってロックさせ、「切」位置にして下さい。

※注意：

走行クラッチレバーを「入」位置のまま変速レバーの操作を行うと危険であると同時に故障の原因にもなりますので絶対に行わないで下さい。

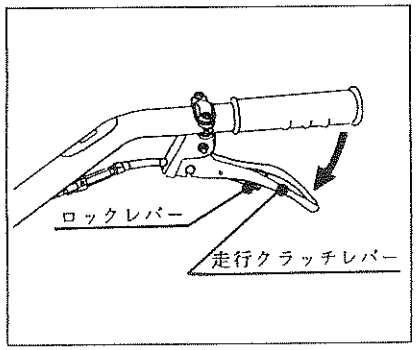


②変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に入れ替えて下さい。

⚠危険：

移動する場合には、ナイフクラッチレバーを絶対に「入」位置にしないで下さい。

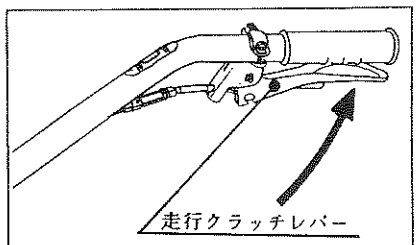
移動中もナイフが回転し、非常に危険です。



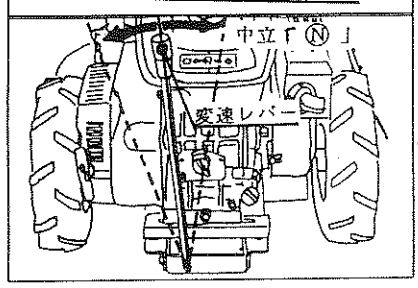
③走行クラッチレバーのロックレバーを一緒に握って離し、「入」位置にして、再発進して下さい。

参考：「🐢」位置ではゆっくりと、「🐇」位置ではスピーディーな前進ができます。

停止のしかた



①走行クラッチレバーを握ってロックさせ、「切」位置にして本機を停止させて下さい。



②変速レバーを「Ⓝ」位置にして下さい。

⚠危険：

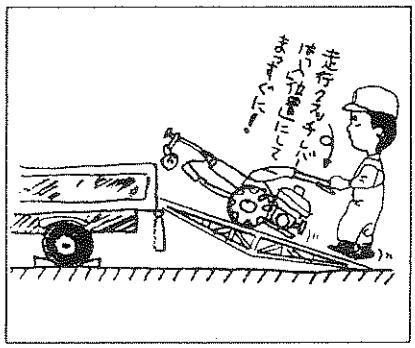
本機から離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉

トラックへの積み降ろしのしかた

⚠危険：

- 運搬に使用する自動車は荷台に天井の無いトラックを使用して下さい。
- トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。
- 本機の正面は危険ですので、真正面には立たないで下さい。
- ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- トラックへの積み降ろし時に、ブリッジの上で走行クラッチレバー、ナイフクラッチレバー等の操作は絶対にしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- 本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして作業を行い、ブリッジ上で位置の修正は行わないで下さい。
- 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで確実に固定し、荷台の上で動かないよう 「車止め」 を掛ければさらに安全です。

積み降ろしのしかた



①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
②基準にあったブリッジを使用して下さい。
③スロットルレバーは「🐇」、「🐢」の中間位置にして下さい。
④積み降ろしはどちらも 前進 で行い、変速レバーは「🐢」位置にしてその他の位置には入れないで下さい。

⚠危険：

トラックへの積み降ろしの際には、ナイフ部分を地面から浮かせて行って下さい。
ナイフがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台の高さの３．５倍以上のもの。
- 幅　…本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機の重量に十分絶え得るもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

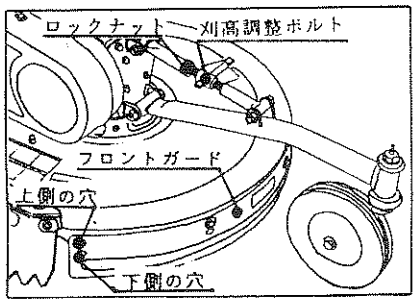
《上手な作業のしかた》

草刈り作業

⚠危険：

- 切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に取り除いて下さい。
- 圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜（限界傾斜角度１０°）のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
- 転落や衝突事故を防ぐため、建物、川やガケ、人のいる方向に向かっての作業は行わないで下さい。
- ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行って下さい。
- 作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、メガネを必ず使用して下さい。
- 作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないよう、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径１０ｍ以内にこれらのものを近づけないで下さい。
- 刈り取られた草は、本機の右吐き出し口より吐き出されるため、障害物に対し常に本機を右側に位置させて下さい。また、石等の異物が多い場所での草刈り作業についてはこれらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等、十分に注意して下さい。

参考：・初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈って下さい。



①作業状況に合わせて刈高調整ボルトで前単輪の高さを調整し、調整後はロックナットで確実に固定して下さい。

②フロントガードを作業条件に合わせて上下いずれかの位置で固定して下さい。

③エンジンを始動させて下さい。

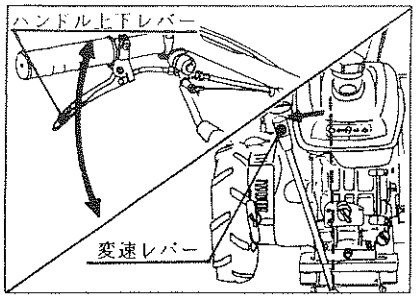
〈9頁…エンジン始動のしかた参照〉

参考：

- 小石やその他の異物が多い圃場ではフロントガードは必ず上側の穴で固定して作業をして下さい。下側の穴で固定したまま作業を行うと、ナイフカバーよりの異物の飛散が多くなり非常に危険です。
- 木の下、垣根わき等では、ナイフクラッチレバーのみを「入」位置にして(走行クラッチレバーは「切」位置)手押し刈りで草刈り作業をして下さい。

⚠危険：

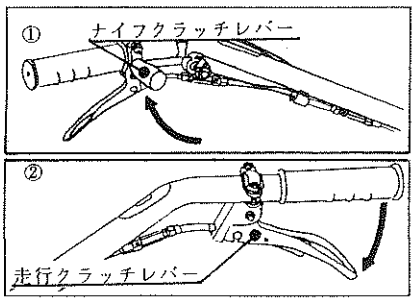
フロントガードの左右を入れ替えて固定して作業をすることは絶対にしないで下さい。ナイフが剥き出し状態となり作業中の異物の飛散により作業者はもちろん周囲にも甚大な被害を及ぼす恐れがあります。



④ハンドル上下レバーで作業内容や作業者の体格に応じてハンドルの高さを調整して下さい。

⑤変速レバーを「🐢」位置にして下さい。

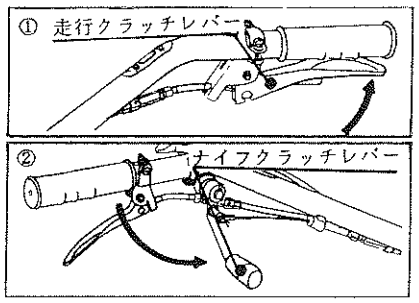
⑥スロットルレバーを高速「🐇」の位置にして下さい。



⑦ナイフクラッチレバーを上に引き上げて「入」位置にして下さい。

☞…ナイフが回転しますので十分に注意して下さい。

⑧次に走行クラッチレバーとロックレバーを一緒に握って離すと「入」位置となり発進し、作業を開始します。



⑨作業を停止する場合には、まず走行クラッチレバーを握って「切」位置にし、その後ナイフクラッチレバーを親指で押し下げて「切」位置にして下さい。

⑩エンジンを停止させて下さい。

〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉

⚠危険：

- 安全のため、最初は「🐢」位置からスタートし、周囲の安全を確かめたうえで作業条件にあった速度にして下さい。
- 安全のため、本機から離れるときは必ずエンジンを停止して下さい。

〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉

- ナイフの回転中はナイフカバー内側一杯までナイフがきますので、作業中絶対に草等をナイフカバー内に足等で蹴り入れないようにして下さい。
- 作業中障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグキャップを点火プラグから外し、損傷を調べて下さい。異常があればすぐに修理して下さい。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

※注意：

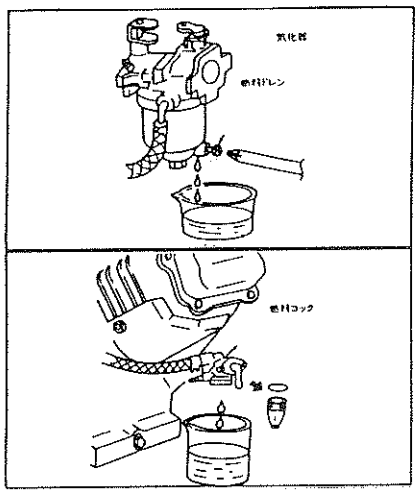
- 草の量が多くエンジンがストップするようであれば作業速度を一段落とすか、刈り高さを上げるか、二回刈りをして下さい。
- ナイフカバーより石等の異物が頻繁に飛散するようであればフロントガードの上側の穴で固定するか、刈り高さを上げて下さい。
- エンジンに草、木の葉等を堆積させないで下さい。これら可燃物が堆積すると火災の原因になったり、本機を破損する場合があります。

《 長期保管のしかた 》

⚠危険：

★エンジンを停止して下さい。〈 11頁参照〉

- くわえタバコや裸火照明での作業禁止。
- 本機を保管する場合には、固い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行って下さい。
- 燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラーが冷えてから行って下さい。
- 抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。



①本機を３０日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈19頁参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスターター、エアークリーナー、マフラー、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエアー吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

☞…草やホコリが堆積したまま作業を続けると
草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因にもなりかねません。

参考：ナイフカバー内に付着した草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

☞…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアークリーナー、マフラー排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所にそれぞれ注油をしておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

※注意：

・出荷時本機にはオイルは入っておりません。使用前には必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ入れて使用して下さい。

・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。

・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約５分以上)待ってから作業を行って下さい。

☞…エンジン停止後、すぐに作業を行うと

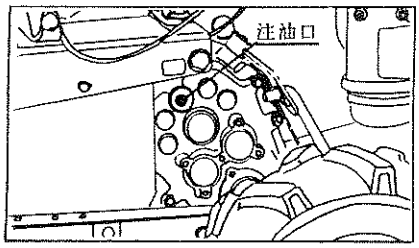
・エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

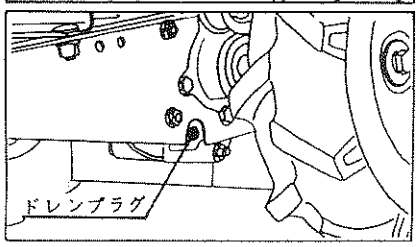
・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確な量が示されません。

・安全のため、作業が終了するまでは点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

ミッションオイルの注油・点検・交換

ミッションケース





◎注油…

ミッションケース左側面上部の注油口よりミッションオイル(#90)を１．６ℓ入れて下さい。

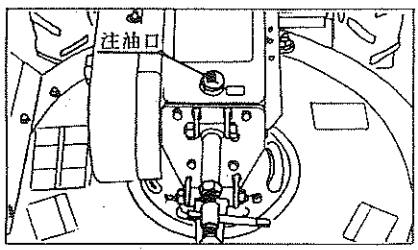
◎点検…

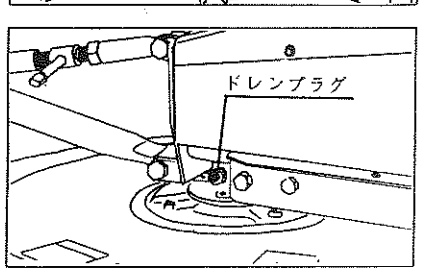
注油口よりミッションオイルが目視で確認出来ればほぼ規定量入っています。

◎交換…

初回は２０時間目、それ以降は１００時間運転毎を目安にミッションケース右側面下部のドレンプラグ（排油口）を外して行って下さい。

ナイフギヤボックス





◎注油…

ギヤボックス上部の注油口よりミッションオイル(#９０)を０．４ℓ入れて下さい。

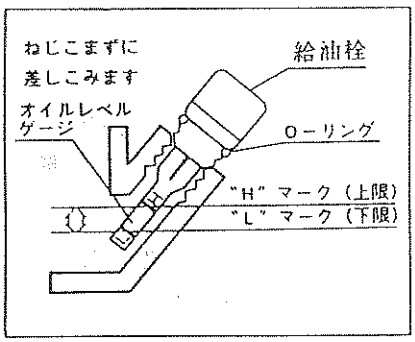
◎点検…

エンジンを停止し､注油口より見て、下側のベベルギヤがミッションオイルに浸かっていればほぼ規定量のミッションオイルが入っています。

◎交換…

初回は２０時間目、それ以降は１００時間運転毎を目安にギヤボックス左側面のドレンプラグ(排油口)を外して行って下さい。

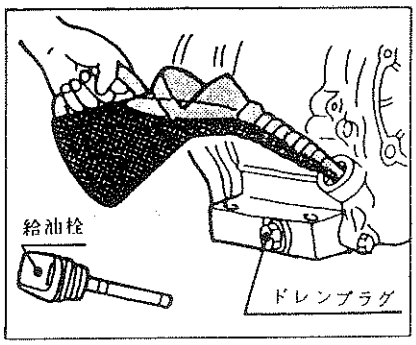
エンジンオイルの注油・点検・交換



◎注油…〈9頁…エンジン始動のしかた参照〉

◎点検…

- 給油栓についているレベルゲージでエンジンオイルの質・量を毎日、もしくは８時間使用毎に点検して下さい。
- 常にレベルゲージの上限までエンジンオイルが入っていることを確認して下さい。



◎交換…

- 初回は２０時間目、それ以降は５０時間運転毎を目安に交換して下さい。
- 交換はオイル給油栓を外し、エンジン後部にあるドレンプラグ(排油口)を工具を使って外して行います。エンジンオイル排出後は、工具を使ってドレンプラグを元のとおりに確実に締め付けておいて下さい。
- エンジンオイル注油後、オイル給油栓を緩まないように手で確実に締め付けて下さい。

●使用するエンジンオイルの質・量については9頁参照のこと。

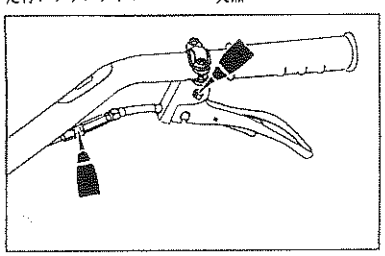
参考：

- エンジンオイルの注油・交換は暖機運転後、エンジンを停止し約５分以上立ってから火傷に注意して行って下さい。
- 給油栓、ドレンプラグの締め付けがゆるいとオイルがにじみ出ることがあります。

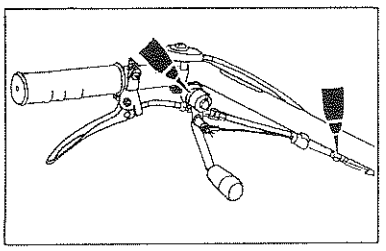
各部への注油のしかた

◎約３０時間毎にグリース又はエンジンオイル(#30)を確実に注油して下さい。
注油を怠ると油切れにより操作が重くなり、最悪の場合破損の恐れもあります。

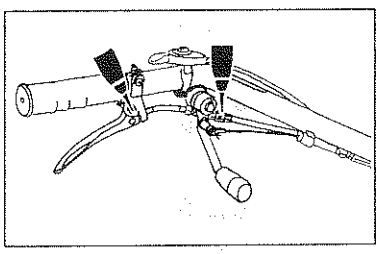
走行クラッチワイヤー・レバー支点



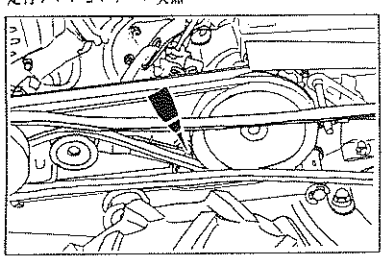
ナイフクラッチ・レバー支点



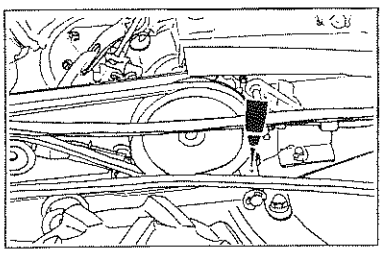
ハンドル上下ワイヤー・レバー支点



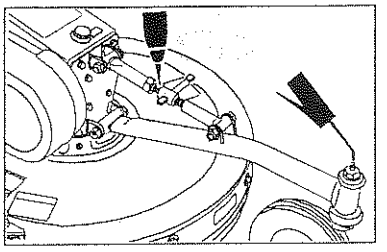
走行テンションアーム支点



ナイフテンションアーム支点

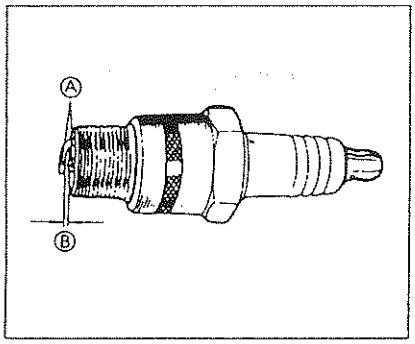


刈高調整ボルト・前輪上部ニップル(グリース)



《各部の点検・整備・調整のしかた》

点火プラグの点検・調整のしかた



①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分 Ⓐ にカーボンが付着していたらワイヤーブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
③点火プラグの電極隙間 Ⓑ を0.7～0.8mmに調整して下さい。

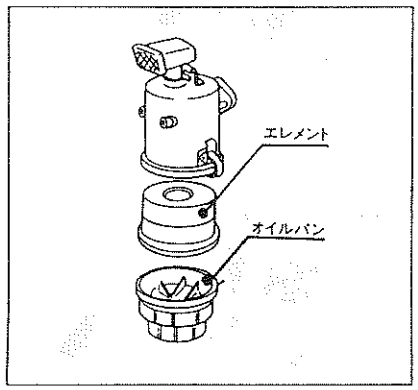
参考：
締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。
始からプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。
☞…点火プラグ基準（ＮＧＫ）8 頁…仕様参照

	カワサキ	メイキ	クボタ
ＡＭ６１Ａ	ＢＰ５ＥＳ		ＢＰ６ＨＳ
ＡＭ７１Ａ	〃		ＢＰ４ＨＳ－１０

エアークリーナーの清掃のしかた

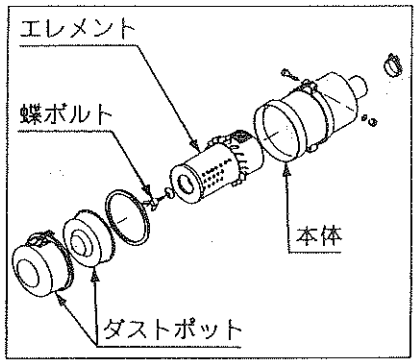
⚠危険：
エアークリーナーが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより火災の原因ともなりますのでので必ず定期的に清掃して下さい。

FE170,221/GM181,221LN/GH170



①クランプを外し、オイルパンを外します。
②オイルパン内にたまった草屑、泥等を白灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイル(SAE10W-30相当)をレベルまで入れて下さい。
③フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後新しいエンジンオイル(SAE10W-30相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

GS280GT-0



①ダストポットの２カ所のクランプを外し、ダストポット内のホコリを清掃して下さい。
②蝶ボルトを外してペーパーエレメントを取り出して下さい。
③ペーパーエレメントは軽く叩くか、内部からエアー吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

※注意：

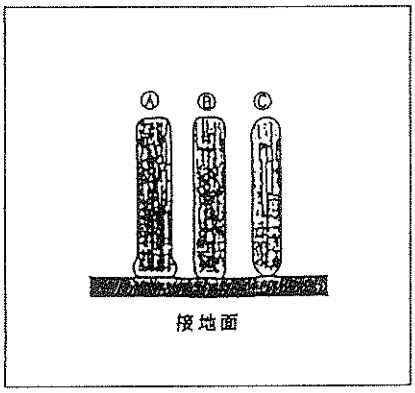
- ペーパーエレメントの汚れがひどい場合は新品と交換するか、石鹸液で洗浄（振り洗い）した後、水洗いし良く乾かして下さい。
- 洗浄する場合、エレメントを強く引っ張ったり、もんだりしないで下さい。エレメントが破れます。
- ペーパーエレメントを叩く時にはろ紙を傷付けないように注意して下さい。
- ろ紙をブラシでこすらないで下さい。
- 乾燥させる時、熱風をあてるとペーパーエレメントの接着部が痛むときがあります。低めの温風で乾かして下さい。

☞…エアークリーナーの清掃、交換時期について

	清掃	交換
エアークリーナーオイル …	—	５０時間毎
フォームエレメント …	２５時間毎	３００時間毎
ペーパーエレメント …	５０時間毎	

●チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

タイヤ空気圧の調整のしかた



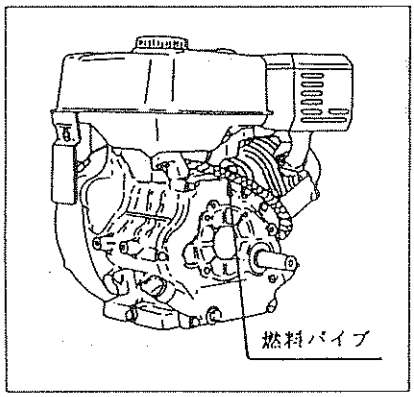
・タイヤの空気圧を、1.2Kg/cm²位に調整して下さい。
左右の空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

・外観から判断する目安は左図の通りです。

Ⓐ：不足　　Ⓒ：過剰
Ⓑ：適正

燃料パイプの点検のしかた

⚠危険：くわえたばこや裸火照明での作業禁止

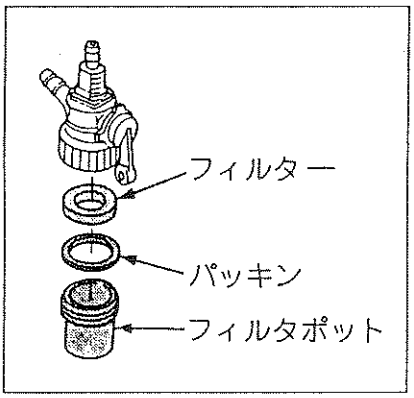


・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締付けバンドと共に３年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
・パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

※注意：
パイプ類の交換時にパイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルターポットの清掃のしかた

⚠危険：くわえたばこや裸火照明での作業禁止



・５０時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
・ガソリンやシンナー等の引火性の強い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。
①燃料コックを「閉」位置にして下さい。
②燃料フィルターポットを外し、燃料フィルターポット内部及びフィルターを引火性の低い灯油等の溶剤で洗い、エアーを使って乾燥させて下さい。
③元の通りに確実に組み付けて下さい。

※注意：
・各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
・各注油箇所に規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
・もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
・オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
・各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。

そのほかの点検

①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）
②Ｖベルトは初期伸びが多少ありますので、２～３時間運転後張り直して下さい。
〈23項参照〉
③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
④各部を十分に馴染ませる為、最初の２～３時間は無理な作業はさけて下さい。
⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行って下さい。
〈28頁参照〉

各部ワイヤー調整のしかた

⚠ 危険：

各ワイヤーを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

走行クラッチワイヤー

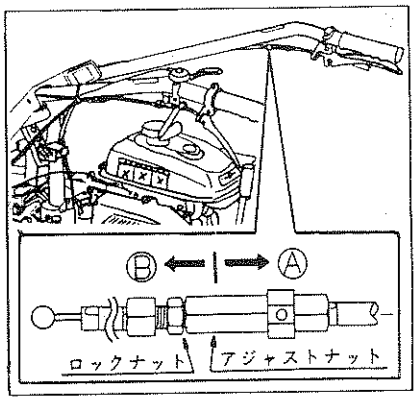


図１

図１を参考に走行クラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

・走行クラッチを入れても負荷がかかるとクラッチが抜ける場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

・走行クラッチを「切」位置にしても本機が停止しない、或いはわずかに微動する場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

●走行ベルトは常に張られた状態にありますので調整の必要はありません。

ナイフクラッチワイヤー

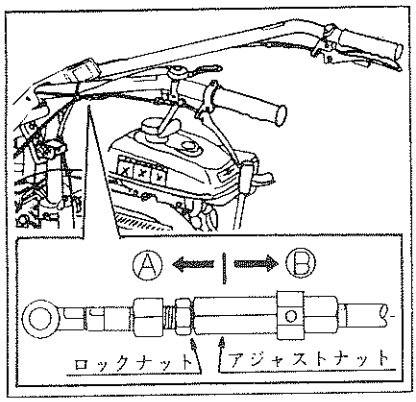


図２

図２を参考にナイフクラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

・ナイフクラッチを「入」位置にしても負荷がかかるとベルトがスリップしてナイフの回転が停止する場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

・ナイフクラッチの切れが悪くナイフクラッチを切ってもナイフの回転が停止しない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

※注意：

・ナイフクラッチワイヤーにはナイフブレーキが接続されています。これの単独での調整は出来ませんがナイフクラッチワイヤーの調整後にはナイフクラッチレバーを「切」位置にすると約３秒でナイフが停止するのを確認して下さい。

・走行ベルト、ナイフベルトは共に消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。調整時期は以下の通りです。

	走行ベルト	ナイフベルト
Vベルトサイズ	ＬＡ－３７×１本	ＬＢ－６９×１本
調整・点検時期	初回：２０時間目　以後：１００時間運転毎	

ハンドル上下ワイヤー

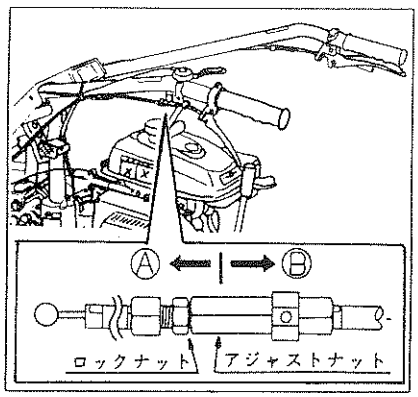


図３

図３を参考にハンドル上下ワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

・レバーを操作してもハンドルの上下ができない場合。
　…アジャストナットをⒷの方向へ…

・ハンドルの上下にガタが多く、負荷がかかるとレバー操作しなくてもハンドルが上下してしまう場合。
　…アジャストナットをⒶの方向へ…

参考：

●各レバーにはいずれもレバー根元での遊びが3～5㎜程度になるように調整して下さい。

●調整後はいずれもロックナットを確実に締め付けておいて下さい。

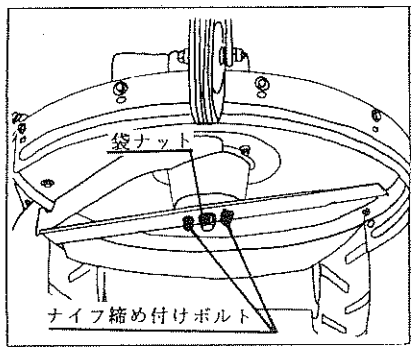
《ナイフの点検・交換・修正のしかた》

ナイフの点検・交換

◎ 作業を安全に行うために、必ずエンジンを停止した後にナイフの作業前点検を行って下さい。

⚠注意：

- 作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、曲がりや欠損が生じていないか点検して下さい。異常が発見された場合には新品と交換して下さい。
- ナイフの摩耗、割れ、曲がり等を放置すると、ナイフが折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当ったりして、重大な人身事故を招くことがあります。
- ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋をつけるか、又は布切れでナイフの先端を包んで行って下さい。
- この点検・交換は、一人では行わず、必ず二人で行いハンドルをしっかり支えてもらい前部が落下しないように注意して下さい。
- ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ナイフ締め付けボルト、ナットも摩耗します。ナイフを交換する際には必ずナイフ締め付けボルト、ナットも同時に交換するようにし、決して他のボルト、ナットで代用しないで下さい。
- 作業をする時は手を滑らさないように十分注意して下さい。



①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉

②本機を後側へ傾斜させて下さい。

③ナイフ締め付けボルトが緩んでいないか点検して下さい。

★交換の際には元のとおりにしっかりとナイフ締め付けボルト、ナットを締め付けておいて下さい。

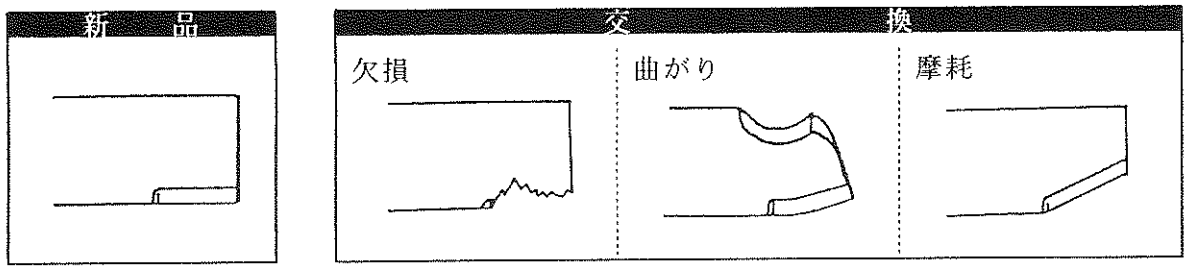
〈ナイフは、二本のユルミ止めボルトと一個の袋ナットで取り付けられています。〉

※注意：

- 長時間傾斜させたまま放置しないで下さい。始動性が悪くなることがあります。

④ナイフの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。

下図の様に異常な状態になっていたら裏返して使用するか交換して下さい。

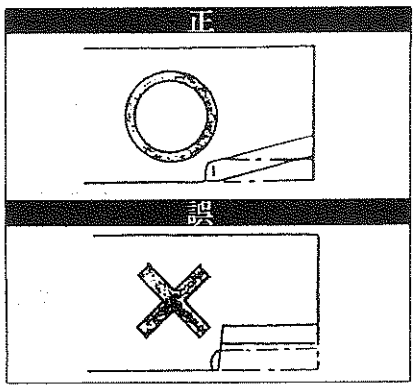


参考：

- 乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
- 予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

ナイフの修正

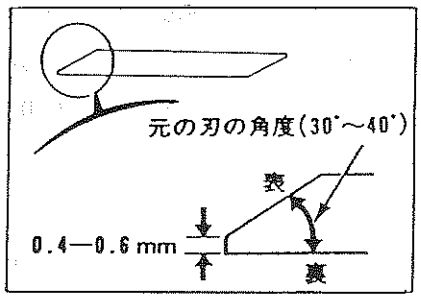
★修正を行うとナイフの初期の性能が損なわれることをご承知おき下さい。★



①ナイフを取り外して下さい。〈25頁参照〉

②以下の要領でナイフを研摩して下さい。

- ナイフを研摩するときは、ナイフをしっかりと保持して下さい。
- ナイフを元の刃と平行に研摩すると、破損の原因となります。
  左図の様に研摩して下さい。
- ナイフのバランスを崩さないように使用する両側の刃を同量研摩して下さい。



③刈先には0.4~0.6mm程度の平らな部分を残しておいて下さい。カミソリの様に刃先をとがらせると、すぐに刃先が摩耗し切れ味が鈍ります。

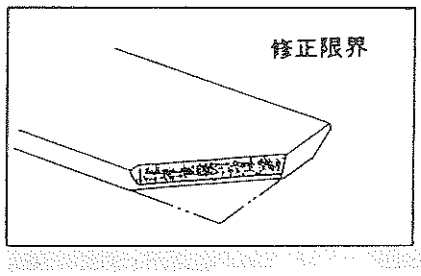
参考：

グラインダー等で研摩する際には、水をかけながらナイフ自体の温度を上げないようにして少しずつ研摩して下さい。

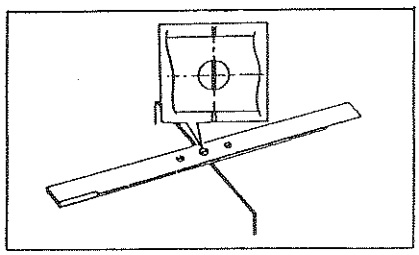
☞…ナイフの温度が上がり過ぎると熱変化により摩耗速度が早くなります。

⚠危険：

- グラインダーを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。



④刃先が左図の様になったら、新しいナイフと交換して下さい。



⑤研摩、金ノコの刃、定規等の薄板の上に穴の中心を合わせ、ナイフのバランスをテストして下さい。左右どちらかがわずかでも下がったら、下がった方の刃の部分を再度研摩して下さい。

バランスが取れない場合は、ナイフを交換して下さい。

⑥ナイフを元のとおりしっかりと取り付けて下さい。

※注意：

- ナイフのバランスが取れていないと、異常振動が生じ、本機を破損する恐れがあります。

《 工具袋・同梱品明細 》

No.	部品名	規格・寸法	個数
①	取扱説明書		1
②	品質保証書		1
③	エンジン工具	エンジン付属品	1
④	両口スパナ	１０×１２	1
	〃	１４×１７	1
⑤	片口スパナ	２４m/m	1
⑥	ゴーグル	防曇タイプ(保護具)	1

《 消耗品明細 》

NO.	部　品　名	部　品　番　号	AM61A	AM71A	個数/台	備　考
①	ナイフ	80-1415-821-00	○		1	
	〃	80-1445-821-00		○	1	
②	Ｖベルト(走 行)SA-38	89-6122-003801	○		1	
③	Ｖベルト(ﾅｲﾌ)SB-70	89-6123-007001	○		1	
④	Ｖベルト(走 行)SA-37	89-6122-003701		○	1	
⑤	Ｖベルト(ﾅｲﾌ)SB-69	89-6123-006901		○	1	
⑥	走行クラッチワイヤ	83-1415-932-00	○	○	1	
⑦	ナイフクラッチワイヤ	83-1415-941-00	○	○	1	
⑧	ハンドル上下ワイヤ	83-1425-965-00	○	○	1	
⑨	スロットルワイヤ	83-1415-951-00	○	○	1	
⑩	袋ナット(ホソ)M16	89-1572-160042	○	○	1	
⑪	バネ座金　φ16	89-1750-160002	○	○	1	
⑫	六角ボルト(8T)M10×25	89-1113-100252	○	○	2	
⑬	バネ座金　φ10	89-1750-100002	○	○	2	
⑭	ナイフネックガード	80-1415-836-00	○	○	1	
⑮	危険マーク　Ⓑ	83-1515-911-00	○	○	1	
⑯	〃　Ⓒ	83-1515-907-00	○	○	1	
⑰	〃　Ⓔ	83-1515-908-00	○	○	1	
⑱	〃　Ⓕ	83-1483-913-00	○	○	1	
⑲	〃　②	83-1484-921-00	○	○	2	手や足を…
⑳	注意マーク　⑱	83-1516-915-00	○	○	1	安全の為…
㉑	〃　⑧	83-1516-922-00	○	○	1	刈取部周辺は…
㉒	〃　⑰	83-1516-908-00	○	○	2	このカバーなしの…
㉓	〃　㉗	83-1487-908-00	○	○	1	保管・火災注意…

《 定期自主点検表 》

★点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、仕業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目		点検内容		点検実施時期 仕業	月例	年次
原動機	本体	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○
		④エアークリーナーの損傷、緩み、汚れ	損傷なく、取付け部に緩み、著しい汚れはないか。		○	○
		⑤シリンダーヘッドと各マニホールド締付け部の緩み ＊	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。（正常締付けトルクで緩みはないか。）			○
	＊	⑥弁すきま	（正規のすき間であるか。）			○
	＊	⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか。）			○
		⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み	エンジンベースに亀裂、変形はないか。ボルト・ナットに緩みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	①油量、汚れ	オイルの量は適切か。オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか	○	○	○
		②油漏れ	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○
	燃料装置	①燃料漏れ	燃料の漏れはないか。	○	○	○
		②燃料フィルターの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
	電気装置	①電気配線の接続部の緩み、損傷	ハーネス接続は適切か、又緩み、損傷はないか。		○	○
伝達装置等	Ｖベルト	①緩み	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		②損傷、汚れ	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動	作動に異常はないか、又異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ	オイルの量は適切か、又著しい汚れはないか。			○
		③油漏れ	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○
車体	車体	①亀裂、変形及び取付けボルト・ナットの緩み、脱落	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。		○	○
	カバー	②亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー及びワイヤー	①レバー及びワイヤー類の損傷、緩み、ガタ、割ピンの欠損	作動及び取付け状態。著しい損傷及び緩み、ガタ、脱落はないか	○	○	○
走行装置等	タイヤ（ホイール）	①空気圧及び溝の深さ	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの緩み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音	取付け部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	①損傷	注意・危険・指示銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※　＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《 刈り取り性能診断 》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現　象	原　因	処　置
刈草がうまく放出されない。	草がしめっている。	草が乾燥してから作業する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。（エンジン回転をチェックする。）
	草が長い。	二度刈りをする。
	刈刃の磨耗、破損。	新しいナイフと交換する。
	ナイフカバー内面への草の堆積。	ナイフカバー内面をきれいに清掃する。
土削りを発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	旋回速度が速い。	旋回時の速度を落とす。
	地形にうねりがある。	草刈作業のパターン（刈取方向等）を変える。
	地形に起伏（凸凹）が多い。	刈高を高くする。
	ナイフの曲り。	新しいナイフと交換する。
ベルトがスリップする。	ベルト張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	ナイフカバー内に草が詰まっている。	詰まった草を取り外し、ナイフカバー内をきいにする。
	プーリーへの草の堆積。	プーリーをきれいに清掃する。
	ベルトの磨耗。	新しいベルトと交換する。
振動が大きい。	ナイフカバー内及びプーリーに草が堆積している。	ナイフカバー及びプーリーをきれいに清掃する。
	ベルトの破損。	新しいベルトに交換する。
	プーリーの破損。	新しいプーリーに交換する。
	ナイフの破損。	新しいナイフに交換する。
	ナイフネックガード内に草屑が溜まっている。	ナイフネックガード内を清掃する。
刈取作業負荷が大きい。	ナイフのバランスが悪い。	新しいナイフと交換するか、ナイフのバランスを取る。
	エンジン回転が低い。	エンジン回転数を最高にする。（エンジン回転数をチェックする。）
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ナイフの回転軸回りに草が堆積あるいは巻付いている。	ナイフをきれいに清掃する。
片方タイヤがスリップしうまく直進しない。（傾斜地での使用を含）	圃場が軟弱である。	圃場が乾くまで作業を待つ。
	等高線刈りをしている。	上下刈りをする。

※分からない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し適切な処理をして下さい。

現　象	原　　因	処　　理
始動困難な場合	アクセルレバーが「始動」の位置でない	アクセルレバーを必ず「始動」の位置にする
	チョークレバーを引いていない	エンジンが冷えている時、チョークレバーを引いて始動する
	燃料が流れない	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取り除く 燃料コックのストレーナーカップを取り外し、カップ内の沈殿物を除去すると共にフィルターに付着しているゴミを取り除く
	燃料送油系統に、空気や水が混入している	パルプ及び締め付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジン自体の回転が重い	気温によってオイルの使い分けをする
	点火コイル、又はユニットの不良	点火コイル、又はユニットを交換する
	点火プラグの不調	点火プラグの電極のスキマを点検し調整する 新しい点火プラグと交換する
出力不足の場合	燃料不足	燃料を補給する
	エアークリーナーの目詰まり	エレメントを清掃する
突然停止した場合	燃料不足	燃料を補給する
	燃料コックが開いていない	燃料コックを開く
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い	良質の燃料と交換する
	エンジンオイルの入れ過ぎ	正規のオイル量にする
マフラーから黒煙が出て出力が低下した場合	エアークリーナーエレメントの目詰まり	エレメントを清掃する
	チョークが完全に開いていない	チョークレバーを完全に戻す
マフラーから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れ過ぎ	正規のオイル量にする
	シリンダー・ピストンリングの摩耗	リングを交換する

※わからない場合は、お買い上げ頂きました販売店にご相談下さい。

株式会社 共立

〒198－8711　東京都青梅市末広町1－7－2　TEL. 0428-32-6181/FAX. 0428-32-6175

北海道共立エコー株式会社
〒004－0041　札幌市厚別区大谷池東1－2－20　TEL. 011-891-2249 (代)
FAX. 011-892-6722

東北共立エコー株式会社
〒984－0002　仙台市若林区卸町東5－1－50　TEL. 022-288-0511 (代)
FAX. 022-288-0520

東部共立エコー株式会社
〒198－0025　青梅市末広町1－7－2　TEL. 0428-32-1091 (代)
FAX. 0428-32-1104

中部共立エコー株式会社
〒452－0031　愛知県西春日井郡枇杷島町宮前町1－39　TEL. 052-502-4111 (代)
FAX. 052-501-6415

西部共立エコー株式会社
〒701－0221　岡山市藤田556－159　TEL. 086-296-5911 (代)
FAX. 086-296-5941

九州共立エコー株式会社
〒816－0943　大野城市白木原5－3－7　TEL. 092-573-5361 (代)
FAX. 092-575-0612

エコーレンテックス株式会社
〒198－0025　東京都青梅市末広町1－7－2　TEL. 0428-32-6777 (代)
FAX. 0428-32-6778

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。